

一般に掛川がわずかに全国平均より下回るが、掛川、全国ともに同じような傾向で段階が上昇するにつれ増加する。掛川は全国に比較して、中学校のみやや高い。

3) 家庭教育費

全国平均は段階が上昇するにつれ低くなるのに対し、掛川は逆に段階の上昇に伴って教育費もまた上昇の傾向を示す。

F-4 家計が負担する教育費の変動(その2)

— 社会保障研究所「児童養育費調査」
による —

お茶の水女大家政 伊藤 秋子
佐々木淑恵
○馬場 紀子

1. 社会保障研究所が昭和 43 年に実施した児童養育費調査(静岡県掛川市)について、(その1)で報告した結果と、文部省の調査のものとを比較して、掛川がどの位置にあるかを検討する。

2. (その1)の結果と、文部省『父兄が支出した教育費』における教育費の年度、地域、期間などの条件を同じに調整し、両者の教育費を比較する。

3. 掛川と全国の1人当たり教育費の比較

1) 教育費総額

全国平均は小・高校が高く、中学校が低いのに対し、掛川は小・中・高と徐々に上昇する。また、掛川の中・高は全国平均よりかなり上回り、かつ、中・高の差の大きいのがめだつ。

2) 学校教育費